

この道はいつか来た道

登場人物

女 男

ダチでも何でもないから、ただいるだけなんですよ……。

女 そうです……。あなた、まだこのことを気にしてたんですか……。

男 いやいや、たとえばの話じゃないですか……。

女 私、こんなものがオトモダチだなんて、思つたこともありません……。何なら私、今ここで、

蹴つとばしてもいいですよ……。

男 まあまあ、やめて下さい……。私も、気にしてるわけじゃないから……。

女 あなたの方で蹴つとばして下さいませんか……。私、何處かよして下さいって言いま

したけど、それは、私とこれがオトモダチとかそういうことじゃなく……。

男 わかつてます……。私だつて別に、そういうことを怪しんでないわけじゃありませんよ……。

ただ……、ね、私が言いたいのは、そこへと、ポリバケツを指しと、そこへと、女を指しには

何もないけど、ここへと、女を指しと、ここへと、自分を指しには、オトモダチというあれが

……。

女 そうです。

男 結婚を申しこんでもいいですか……？

女 ちよつと待って下さい、もうですか……？ 今、オトモダチになつたばかりじゃありませんか

……。

男 そうですね……。それじゃ、ちよつと待ちましょう……。あの雲が、あのあたりまで流れてから

なら、どうですか……？

女 そうじゃありませんよ、あなた……。こういうことは、時間がたてばいいって問題じゃありません……。その前にいろいろと……。

男 プレゼントをするとか……？

女 そうですね……。

男 用意してあるんです……。〔荷物を探る〕

女 でも、何ですよ、オトモダチ同士が、より親しくなるためにはプレゼントも必要ですが……。

男 〔出して〕これです……。

女 〔受け取って〕何ですか、これ……？

男 クツシタですよ……。もちろん、片一方しかありませんけどね、ですから、寒い方の足にはくんです……。で、その足があたたまったら、はきかえる……。クツシタつてのは足袋と違って、

どちらの足にもはけますからね、その点、便利ですよ……。

女 これ、私に下さるんですか……？

男 プレゼントです……。

女 ありがとうございます……。

男 いえいえ、たいしたもんじゃありませんから、どうぞお気になさらないで……。お返しなんて、そういうことは……。

女 お返し……？

男 いえ、ですからね、もしあなたがそういうことをお考えでしたら、お気遣いなさいませんよう

にと……。

女 でも、そうですよ、どんなに親しいオトモダチ同士でも、やはりプレゼントをいただいた以上、お返しをしませんと……。 (荷物をかきまわす)

男 そうですか……。それじゃ、ほんのおしるし程度にして下さい……。そうじゃないと、かえって、何ですし……。

女 (荷物をかきまわしながら) あなた、お酒は召し上ります……？

男 ええ、まあ、ほんのちよつとですが……。ですから、あればいただくけれども、なければいただかないという……。

女 だったら、いいものがありますよ……。 (と、出して) これです……。

男 (受け取って) 何ですか、これ……？

女 お酒を飲んだ後に、それを水に溶かして服むと、酔いをさましてくれるんですって……。

男 あ、さますんですか……？

女 汚くありませんよ、私、ちゃんとふいとききましたから……。

男 ふいといったって……。これ「落ちてたんですか……」？

女 ええ……。でも、きれいにふいてから、お薬屋さんに持っていって、これ、何の薬ですかって聞いてみたんです……。ですから、大丈夫ですよ……。変なものじゃありません……。本当は、二錠服まなければいけないらしいですが、あなた、今うかがったらそんなに量はお飲みにならないそうですからね、一錠でさめます……。

男 ありがとうございます……。

女 とんでもない……。どうせ私が持つててもしょうがないもんですから……。私、お酒は飲みませんし……。今、お服になります……？

男 え……。いや……。だって、これ、酔った時、服むもんじゃありませんか……？

女 そうですけどね……。あらかじめ服んでおきましたら、予防になるかもしれないと思ひまして……。

男 予防ね……。私、あまり予防はしないことにしているんです、お酒をいただく時は……。しまつておきますよ……。

女 そうしておいて下さい……。いつかきつと、お役に立ちますよ……。それから……。そういうもんですからね、お返しなんて考えませんように……。

男 お返しつて、これのお返しですか……？

女 ですから、そういうことはなさいませんように……。

男 でも、あなたがそうおっしゃるからには、本当はここで、これに対するお返しがあつてしかるべきだけでも、今回の場合はやめておこうという……？

女 そうじゃありません……。お返しはいらないんです……。

男 ええ、そのことはよくわかりましたが……。

女 わかったら、いいじゃありませんか……。

男 いいんですけど……。私がうかがいたいのは、いいですか、あなたの気持ではなくて、こうい

う場合の原則なんです……。

女 原則……？

男 そうです、原則です……。私はプレゼントしました……。そして、お返しはいりませんと言いました……。これは、私の気持です……。しかし、原則はお返しをすることになっていましたので、あなたはその原則にのっとって、お返しをしました……。そして、お返しはいいって言いました……。わかりますね、これはあなたの気持ですよ……。でも原則はどうなんです……。原則はお返しをすることになっていたら、私はあなたの気持につけこんで、横着をしたことになる……。

女 あなたも、ずい分こみいった考え方をする方なんじゃありません……。この世界について……。

男 そうやって生きてきたんです、私は……。この油断のならない世界を……。

女 お茶にしません……？

男 いいですね、私のマホービンのお湯が、まだあたたかいはずです……。

女 それでは、私、お茶の葉を出します……。

男 お茶碗は、私、持っていますよ、それほど汚れてないのを、二つ……。

女 この、お盆の上に乗せて下さい……。私、ウェット・ティッシュを持っておりますから、それでふきます……。

男 汚くはないんですよ……。

女 ふくと……いやですか……？

男 いやいや、ただウェット・ティッシュがもったいないかなと思ひまして……。

女 大丈夫です……、沢山ありますから……。

男 それじゃ、私、茶こしを出しましょう……。これ、ちよつと穴があいておりますが、ここんとここに何かを詰めれば……。

女 私、キュースを持っております……。ふたのないのを……。でも、ふたなんかなくなつて、お茶は入りますからね……。

男 待つて下さい……。それなら、私、茶こしはやめて、ふたを出します……。

女 ふた、あるんですか……？

男 ふただけ、持つてゐるんです……。少し大きいかもしれませんが……。

女 それ、やかんのふたじゃありません……？

男 でも、ふたにはなりますよ……。

女 そうね……。 (キュースにお茶の葉を入れながら) あなた、何か、お茶受けになるようなもの、

お持ちですか……？

男 お茶受けつて、何です……？

女 ですからね、お茶をいただきながら、こう……、つまめるもんですよ……。

男 アスピリンとか……？

女 あなた、お茶飲みながら、アスピリン食べるんですか……？

男 そうじゃありませんけど……、ほかに口に入れるものを思いつかなかったもんですから……。

女 私、イカの塩辛なら持つてゐるんですけど……。

男 イカの塩辛、それにしましょう……。

女 お茶受けとしては、異例じゃありません……？

男 異例じゃありません……。塩っぱいでしよう、お茶がすすみます……。私が、お小皿を出しますから、それほど汚くないのを……。もちろん、ウェット・ティッシュでふいていただいてかまいませんが……。

女 (出して) これです……。ね、このまま捨ててあつたんですが、まだだいぶ入つてますでしよう……？ 塩辛ですから、腐つてやしませんよ……。

男 少し、乾いてますか……？

女 ええ、でも、しゃぶつていればそれらしくなります……。お箸は、御自分のお持ちですね……？

男 お箸……？

女 塩辛をつまむ……。

男 ああ……。 (出す)

女 それじゃ、いただきますしうか……？

男 いただきます……。

二人のお茶……。

女 ねえ……。

男 何ですか……？

女 何ていい日なんでしょう……。

男 そうですね……。お茶がおいしい……。

女 塩辛もどうぞ……。

男 いただきます……。

女 あなた、齒は大丈夫ですか……？

男 自信はないんですが……。あなた、今おっしゃったように、しゃぶっていれば、そのうちに何とかなるだろうと思ひまして……。

女 そうですよ……。後で、どうしようもなくなったら、ここに出して下さい……。それは無作法でも何でもありませんよ、だって私たち、その時にはもう充分に、味わいつくしているんですからね……。〔噛みながら立ち上ろうとする男を見て〕あなた、どうしました……？

男 どうもしませんけどね……。これ、塩辛ですか……？〔立ち上る〕

女 塩辛ですよ……。何だと思ったんです……？

男 いや……。するめかと……。

女 するめのはずがないじゃありませんか、ここにちゃんと、塩辛って……。どうして立つんです

男 立たないと、噛み切れないんですよ……。

女 ですから……。あなた、どこへ行くんです……？

男 どこへも行きやしません……。ただ、噛み切れませんから……。

女 しゃぶるだけにして下さいって、今、言ったばかりでしょう……。

男 しかし……。 (やむなく、口から引きずり出して) 残念だ……。

女 ここに捨てて下さい……。あなた自身、しゃぶるだけだって、言つてたじゃありませんか……。

男 (坐つて) しゃぶっていると、噛みたくなるんです……。そして噛んでいると、飲みこみたくなる……。

女 あなた、噛む時はいつも、ああして立ち上るんですか……？

男 そうじゃありませんけどね……。ただ、坐っていると、力が入らない感じがしません……？

一生懸命やろうとすると、思わず立ち上つてしまうもんですよ、人間というものは……。

女 私はそんなことはありません……。 (しゃぶっていたものを、口から出して捨てる)

男 まだ、ふつくらしているじゃありませんか……。

女 いいんです……。干しといて、またしゃぶりたいくなれば、しゃぶればいいんですから……。

男 え……。それじゃ、これはみんな、あなたがそうやって……？

女 違います……。ここにあるのはみんな、拾つてきたそのままのものです……。私が一度しゃぶ

つたのは、こうして……。 (と、ポケットから紙に包んだものを出して見せ) 別にとつてあります

男 ああ……。あなたが時々、夜中にクチャクチャやってるのは、それですか……？
女 そうです……。夜中に、お腹が空いた時などに……。でも、どうして知ってるんです、そんなことを……？

男 いや、いつかそんなことがあったような気がしただけです……。お茶を、もう一杯いただけま

女 はい。……？
女 どうぞ……。少し、寒くなりましたか……？

男 ええ、少し……。何か、掛けますか……？

女 そうですね、それじゃ、とりあえず……。 (と、ショールをかける)

男 大事にして下さい……。普通の体じゃないんですから……。

女 ありがとうございます……。でも、普通の体じゃないっていうのは、どういうことです……？

男 ですから、私たちはこういう生活をしていますからね……。ちよつと風邪を引いても、たちまちどうしようもなくなるってことです……。

女 何度か私、そういう風に言われたような気がするんです……。あなたは、普通の体じゃないん

ですから……。

男 ^{とこいれは}私たちが、だいぶオトモダチになったと思いませんか……？

女 そうね、ほとんどオトモダチと言ってもいいくらいですよ、私たちは……。でも……。

男 結婚するほどじゃない……？